学校教育実践コース・国語教育専修，中国古典研究

孔子の実像と『論語』について

国語教育専修・太田亨

１、授業の概観

『論語』は小・中・高で取り上げられる教材である。将来教育現場できちんと教材研究ができるように、孔子の実像と『論語』の実態を理解することが本授業の目的である。

高等学校までに学習した『論語』の章は、道徳的な要素が強く、学生は孔子を道徳修養者としてとらえていることが多い。そのため、授業ではなるべく多くの『論語』の章に触れ、孔子が本来は政治家であること、『論語』は孔子が弟子に政治家の資質について説いたものであることを学習する。

授業の形態であるが、コロナ禍であるため、Moodle を利用して、非同期型の遠隔授業を行った。まず、インターネット上に存在する『論語』の現代語訳を読んでも良いことを通知し、毎回テーマを設定し、それぞれのテーマに関する資料と課題を配付した。学生は配付資料を調べ、テーマに沿って考察し､自身の考えを整理して論述した。学生が提出した論述については、必ずフィードバックを行い、テーマについての回答・解説を提示した。

各回の概要は次の通りである。

第１回：『論語』の概説―ガイダンスを兼ねて
第２回：孔子の生きた時代
第３回：孔子の人生Ⅰ（誕生から魯国脱出まで）
第４回：孔子の人生Ⅱ（各国放浪から晩年まで）
第５回：孔子の弟子と『論語』の成立過程
第６回：孔子の人生と教材研究
第７回：孔子と弟子Ⅰ―子路
第８回：孔子と弟子Ⅱ―子貢
第９回：孔子と弟子Ⅲ―顔回
第 10 回：孔子と弟子Ⅳ―子夏
第 11 回：孔子の弟子と教材研究
第 12 回：孔子の仁に対する考え方
第 13 回：孔子の学問に対する考え方
第 14 回：孔子の政治に対する考え方
第 15 回：『論語』の日本への影響

実際の授業であるが、学生は始めのうち、配付した資料を読解し、テーマに沿って自分の考えを導き出すことに苦労していた。どうしてもインターネットに流れている孔子像に振り回され、そのままコピーして提出する場合が多かった。フィードバックには、インターネットに振り回されず、自分なりの答えを導き出すことを指示した。次第に、資料を深く読解すること、資料を基に自分の考えを出すことに慣れ、孔子の実像についての理解を深めているようであった。

例年の対面授業に較べると、毎回課題について調べ、レポートを提出することになるので、学生にとってはより大変だったと思われる。教員側も資料・課題・フィードバック・課題の回答を準備しなければならず、例年より困難であったが、学生の学習時間・知識量・資料調査力・考察時間は大幅に上昇したと言える。遠隔授業によって効果を増大することができた授業と言えよう。

一連の授業後にアンケートを行った。

２、学生アンケート及び結果

まずは授業の概要について５項目のアンケートを選択形式で行い、その後、授業の理解・感想・意見について、４項目のアンケートを記述式で行った。以下、その項目と結果である。回答者は８名である。②～⑤について、アンケート用紙には、マイナス要素を含む選択肢も当然あるが、０名の場合は省略した。⑥～⑧に関しては全員が非常に詳しく記述していたため、数名の回答のみを取り上げる。

１シラバスの説明（授業の概要）はありましたか。（あった：８名　なかった：０名）
２授業はシラバス通り行われましたか。（行われた：８名　行われなかった：０名）
３授業には興味を持って臨むことができましたか。（臨むことができた：４名　まあまあできた：３名　ふつう１名）
４課題提出の際、授業外の学習をどれほどしましたか。（かなりした：７名　まあまあした：１名　ふつう：０名）
５授業を通して、孔子と『論語』に対する理解は深まりましたか。（かなり深まった：５名　まあまあ深まった：３名　ふつう：０名）
６孔子に対する考え方は授業前と授業後でどのように変わりましたか。（弟子たち・孔子と弟子の関係についてでも構いません）

・２回生の時に受講した「中国古典概説」で孔子のことを学習したが、それでも孔子について道徳を極めた人物として認識していた。インターネットには孔子を道徳者としてとらえているものが多く､始めは先生の言うことがよく分からなかった。回を重ねると、配付される資料を読んで考えることが大事だと言うことに気付いた。孔子と弟子は政治集団だと言うことが分かった。
･「中国古典概説」で孔子は政治家だと言うことは分かっていたが、これほどまでに政治について述べているとは思わなかった。現代の野党みたいなイメージで良いのでしょうか。
･「中国古典概説」ではピンとこなかったが、孔子が苦労人であることを知っていた。授業を受けると、何に苦労していたのかが明確になった。孔子は真剣に政治のことを考え、弟子たちを政治家にするために必死で教育していた。

７『論語』の特徴について、どのようなことを学びましたか。(内容・成立過程等、何でも構いません)
・「仁」「恕」「孝」「礼」が密接に関係し、それらは政治に繋がっていることに驚いた。道徳書ではなく政治指南書であることが分かった。
・インターネットでは、孔子が人間の道徳書として述べたものという認識が強すぎる。孔子が政治に必要な仁を述べたものであって、弟子たちに政治家として大成するための条件を述べていた。「子曰」とあるのは、政治に関連させて読むと理解が深まることが分かった。
・子貢の存在が『論語』の成立に深く関わっていることが分かり、驚いた。もし子貢がいなかったら『論語』が今に伝わっていなかったかもしれない。

８授業の形態全般について、あなたの感想を述べて下さい。
・最初にシラバスが提示されるのが遅かった。
・毎回課題を提出するのは大変だった。
・毎回資料を読んで考えるのが大変だった。
・毎回テーマがあり、資料を基に考えることが楽しかった。
・課題を提出した後の、先生のフィードバックが良かった。
・２、３回で良いので、同期型の授業を取り入れてほしかった。
・グループワークやグループトークを取り入れてほしかった。
(『論語』に対する感想もありましたが、形態についてなので略)

３アンケート結果・まとめ
　１～５の結果を見ると、教員の対応や授業の進行については、それほど不満はなかったのではないかと思われる。
　６～８の回答については、８人が丁寧な回答をしていた。授業の目的である孔子の実像と『論語』の実態を理解することについては、おおよそ達成できていたのでは無いかと思われる。現代に浸透している孔子像は実際の孔子像から乖離している。資料を読解し、テーマを考察することでそのことを認識・理解できたことが窺える。
　『論語』は小学校・中学校・高等学校で必ず出てくる教材である。本授業で得た知識を利用して教材研究を行い、授業を組み立ててもらいたいと思う。
　授業形態については、考慮する余地がまだ多くあるようである。学生も初めてのことで戸惑うことが多かったようである。対面授業・遠隔授業非同期型・遠隔授業同期型があり、どのように行うことが最も学生のためになるのかを、授業内容に照らし合わせて考えるようにしたい。良かった点を残し、改善点を来年度の授業に活かしていきたいと思う。